



各分団の精鋭が技を競った町消防大会（開会式・6月30日役場駐車場）

- | | |
|---------------------|------|
| 1. 6月定例議会 概要と議案一覧 | 2~3 |
| 2. 一般質問 こんなことを聞きました | 4~7 |
| 3. 議会レポート | 8~9 |
| 4. 議員と語る会(6月)の写真 | 9~10 |



大勢の人で賑わったアカシアまつり

6月定例議会 予算が手つかず、厳しい意見が

平成27年度補正予算 年度末調整



家族向け8戸が計画された岩ノ下敷地

- 問** バランスシート等の財務諸表、連結決算もあわせ8点提出されたが、これらは今後の決算審査の際、議会の議決事項になるのか。
- 答** 国は全ての地方自治体に対し新たな指標を義務づけ、平成28年度決算から本格スタートとなります。
- また、議会の議決は必要としません。
- 問** 町政施行60周年に関する町史編さん費の減額理由は。
- 答** 昨年度は対処できずこの度の減額に至ったが、本年度は明確に取り組んでいきます。
- 問** ブドウの加工場が具体化されなかった理由は。
- 答** 国はハード事業として捉えていることがネックとなり不採択となりました。本年度においてはソフト面・ハード面各々に力点を置いた申請をおこない事業採択を得たいと考えています。
- 問** 未来創生資金が減額になった理由は。
- 答** 昨年と比較すると6倍以上の伸びとなりましたが、昨年度の補正段階で多めに予算措置していたことから減額となったものです。
- 問** 減債基金に4億円以上の積み増しがされたが、今後どのような使われ方がされるのか。
- 答** 中学校・役場庁舎建設の償還が始まることから措置したものです。町の会計を圧迫することなくこれら支出を適正にすすめていきます。
- 問** なたね油の設備強化を取り止めた理由は何ですか。
- 答** 施設内での電力関係の電力不足が判明したことから見送ったところです。本年秋までにはエコサカと協力し改善致します。
- 問** 環境保全型農業に対する減額の理由は。
- 答** 有機栽培を計画した農家が行うことが出来ず減額にいたしました。
- 問** 安心除雪・再就職支援・希望チャレンジなど目玉事業の減額が多岐にわたっているが、これらをどう評価しているか。
- 答** 各事業が進まなかったことは残念に思っています。今後は丁寧な事業進捗に努力していきます。
- 問** 本年度80周年を迎える国立公園十和田湖の観光産業を守るために小坂町と十和田市の前向きな議論が必要と考えるか。
- 答** 町として出来るだけの助成をおこなうとともに十和田市との議論を深め対処していきます。



国立公園 80 周年を迎えた十和田湖

公有財産の取得に説明責任を

問 6月3日に行われた観光フォーラムにおいて、大館市・北秋田市・小坂町の地域連携DMO秋田犬ツーリズムの取組を内外に強く発信注目させるための方策として、

4年前佐竹知事がロシアのプーチン大統領に贈った秋田犬「ゆめ」に、新たに雄の秋田犬を贈りカップルを成立させ、生まれた子犬を引き取ることでDMOのシンボルにするよう取り組んでは。

答 秋田犬ツーリズムに提案をし具体化できればと考えます。

問 DMOに鹿角市が参入されないことは十和田・八幡平国立公園等の関係も見て必要なことではないかと考えるが、小坂町が接着剤の役割を果たし連携できないか。

答 当初結成に向け鹿角市に対し参入を呼びかけたが辞退されたとのこと、今後町として努力します。

問 公有財産購入の目的は。

答 岩ノ下地内を購入しようとするもので、定住促進のため家族向け8戸を建設したいと考えています。

問 公有財産購入にあたっては、当初予算を審議した際は、議会に対する説明を果たした上ですすめるとのことですが、これでは納得がいかない。

答 担当常任委員会には説明をしたところですが、議会全体への説明不足であったことはお詫びする。

問 計画では建設にあたってPPP方式で行いたいとのことであるが、地元企業で対応できるのか。

答 近隣の市町村に確認をしたところ、それほど多いとは言えない状況のようです。この度の提案にあたって地元企業に参考意見をもらっていますが、対応してくれるとの判断をしております。

問 小学校の修繕に関する内容は。

答 スポーツ少年団の野球場は、自ら準備している発電機を活用し、夕暮れ時以降使用していましたが、スポ少との協議のうえ町として電気による照明が必要との判断から予算措置したものです。

問 野球場の水はけが悪いとのことから改善をするとのこと聞いていたが。

答 業者との話し合いで抜本的な改修が必要との認識ですが、今後計画的にすすめる必要があると判断しています。

問 なお、水はけの悪さについては応急処置をしております。

問 民間企業に町が補助をおこなうとのことであるが、決済に至った町長の判断を聞きたい。

答 なたね油を生産するにあたり、その前段である菜種の収穫をおこなう人材がいらないということから苦慮しました。ここまでやって来て、ここで駄目にしてはいけないという思いから町長として了解

したものです。
問 町長の気持ちは分からないわけではないが、民間企業に補助することは前例の無いこと、今後の展望と責任の取り方をお知らせいただきたい。

答 事業の継続を願って町が補助しましたが、企業には出来るだけ努力してほしいと願っています。また議員の知識と協力をお願いしたい。

問 協力は必要と考えるが、若い担い手と企業努力はしっかりやってほしい。



民間企業への補助が示されたエコサカ

採決の際に賛否が分かれた案件の結果（6月定例議会）

○：賛成 ●：反対 欠：欠席 退：退席（議長は採決に加わりません。）

議席番号	議員名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	採決結果
	鹿兒島 巖													否決
	船水 隆一	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	本田 佳子													
	亀田 利美													
	栗山 忠三													
	宮 信													
	小笠原正見													
	成田 直人													
	椿谷 竹治													
	小笠原憲昭													
	熊谷 聡													
	目時 重雄													
	平成28年度小坂町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	否決

1 1番 鹿兒島 巖 議員

1. 5月30日の局地的降ひょう被害について
2. 国の指定廃棄物解除の動向と町の対応について
3. 地域医療構想での地域の医療体制について

2 3番 本田 佳子 議員

1. 介護用ロボットについて
2. 食品ロスの削減について
3. 水道管の整備について

3 11番 熊谷 聴 議員

1. 局地的に発生した降ひょう被害について
2. 新規就農対策について

一 般

質 問

6月定例議会

こんなことを 聞きました

= 3議員が登壇 =

▶大勢の町民の方が傍聴した一般質問



降ひよう被害への対策を

町長 必要な支援について早急に検討



鹿兒島 鹿角議員



5月30日に降ったひよう

問 去る5月30日、午後3時から約1時間にわたり鹿角市毛馬内から小坂町七滝地区にかけて局地的に激しくひようが降り、作付け間もない、あるいは結実期、さらには収穫期間近の農作物に大きな被害をあたえた。

答 新聞報道によれば、鹿角市では被害面積が65・57ヘクタール、被害額は、3・256万円余となっているとのこと、この被害額には調査中のリンゴ・モモなどは含まれていないため今後さらに膨らむ見込みということであった。

これらの被害の状況について町でも調査を行い、議会でも産業教育常任委員会で6月7日に現地調査を行って状況を確認しているが、被害状況と、被害に対する町の対策はどうか。

答 被害はねぎ、アスパラ、スナップエンドウ、トウモロコシ、菜種、ぶどうで、面積で4・8ヘクタール、被害額は

はぶどうを除き約137万7千円、また農業用施設ではパイプハウス3棟、約390㎡被害額約10万1千円と見込まれます。ぶどうの被害については鹿角地域振興局と被害程度の認定について調整中で、少し時間をいただきたいと思

国の指定廃棄物解除は疑問 町民の安心・安全に向けた対応を

町長 管理状況を把握し適切に対処したい

います。町では被害にあった農作物栽培について、来年につながるよう、継続して農業経営されるために必要な支援について、生産者や鹿角地域振興局と相談し、対策を早急に検討したいと考えています。

問 国はこれまで放射性廃棄物の濃度が1kgあたり8000ベクレル以下となったものについて、災害から5年を経過した今日、その指定を解除し、各市町村が一般ゴミと同様に処理出来るという方針を示した。

- ① この方針変更をどう受け止めているか。
- ② 搬入される一般廃棄物にこれまで以上に汚染廃棄物の混入が想定されるがどうか。
- ③ 低濃度の汚染廃棄物が大量に蓄積されることについてどう考えるか。

答 現在、町ではグリーンフィル小坂との協定で、国とは別に1kgあたり4,000



グリーンフィル小坂の最終処分場

ベクレルの独自基準を定めており、搬入トラック一台ごとの計測を行っておりますし、一般廃棄物が搬入される場合は事前協議があり、町が事前協議に応じている一般廃棄物は、原則として当年度内に発生した分のみで、複数年保管された廃棄物は対象としないことから、この改定により指定解除された一般廃棄物が町に搬入される可能性は全くないと考えます。

昨年中に搬入された関東圏からの一般廃棄物は3万9,918・4トンで、そのほとんどが1kgあたり2000ベクレル以下、高いものでも1,000ベクレル程度で数値は徐々に減少しています。濃度は低くなっても嚴重な管理が必要と考えておりますし、今後事業者に適切な管理を求め、町でも管理状況を把握し適切に対処していきたいと考えます。

策定中の地域医療構想 医療難民を出さない取り組みを

町長 大館・鹿角地域の連携を強化したい

介護ロボットの導入の考えはあるか

町長 前向きに検討していきたい



本田 佳子議員

問 施設等において介護にかかわる人の負担を和らげる「介護ロボット」の活躍が注目されている。町で「介護ロボット」を導入している施設等はあるか。

答 町内の事業所では今のところ導入実績はありません。**問** 介護ロボットの必要性をどのように考えているか。ま



介護ロボット装着の様子

た、介護ロボット導入の考えはあるか。

答 介護現場での作業負担軽減が人員確保や介護の質の向上に直結するものと考えられており、導入時や維持管理のコスト低減、多様用途・汎用化を図ることができれば、導入を検討する事業所も増えてくると予想しております。しかしながら、介護保険の関係やいろいろな分野での検討が必要ですので、しばらくお時間をいただきますが、前向きに検討していきたい。

食品ロスの削減について

問 食べられる状態なのに捨てられる「食品ロス」は家庭やスーパー、ホテルやレストランなどあらゆるところで見受けられる。日本では年間2,797万トンの食品廃棄物が発生しており、このうちの4割近い632万トンが食品ロスと推計されている。NPOの活動で消費期限が迫った食品を引き取り、生活困窮



ペロリウィーク給食の様子

者へ無償提供する「フードバンク」また、先進的な自治体では宴会の食べ残しを減らすため、乾杯後の30分と終了後の10分を自分の席で食事を楽しむ運動を進めている。町では食品ロスにおける取り組みは行われているか。

答 ごみの処理による環境への負荷を軽減するため、町では生ゴミの堆肥化、食用油の回収・BDF化、小型家電の回収・再資源化の事業を行っ

ております。**問** 教育施設における学校給食や食育、環境教育などを通して、食品ロス削減のための啓発を進めるべきと考えますかどうか。

答 当町の小中学校では、平成25年からの取り組みとして、6月と11月の一週間をペロリウィークと位置づけ、給食の残量を調査することで、子供たち自らが食べ残しについての問題意識を持つためのきっかけになっております。また、学級活動の他、生活科や家庭科、道徳などの授業で、栄養士や担任による鹿角の食文化や食育にかかる指導も行っております。しかしながら、食品ロスの削減を意識した取り組みとしては、まだまだ不十分であり、学校での取り組みのほか、家庭の役割も不可欠ではないかと考えています。今後とも学校給食をとおして、身近なところから、食品ロス削減のため啓発に努めてまいります。

水道管の整備について

問 全国でも水道管の老朽化により水道事故が多発してい

る。町での水道管の整備は行われているか。**答** 町内における上水道、簡易水道の総管路延長はおよそ89キロメートル布設されております。現在、布設年度や管種などが複雑に入り交じった管はきちんと整備され、図面に落とし込んで計画的に更新しております。簡易水道統合事業でも上水道への切り替えを順次実施しており、その中で管の更新を進め、今年度も若木立・野口地区において継続工事中です。

問 コスト削減のため、国道の拡幅工事とあわせて水道工事など行えないものか。

答 事業主体が異なる工事が同一区間で行われる場合、それぞれ計画が単独で進んだ場合には事業年度の違いから新設した舗装を数年で掘り返すといったことが現実になりました。そのようなことを防ぐため近年では、年二回の鹿角振興局と町の意見交換会でお互いの情報交換しながら、情報を基に可能なものは予算化して県に同時施工をお願いするなどして経費節減に努めております。

降ひょう被害対策についてどのような対応をしたか

町長 農業経営を継続するための対策を検討したい



熊谷 聡議員

問 降ひょう被害についてお尋ねします。

被害発生当時、県の振興局では被害状況確認のため、現地を訪ねています。また、翌日、農協等でハウスの被害調査を行い、さらに県会議員も関係機関との行政懇談会を開催しております。町では、今回の被害について、いつどのような対応をしたのか。

答 5月30日に鹿角市毛馬内・大湯地区から小坂町七滝・上向地区にかけての局地的な降ひょうにより、農作物と農業用施設の被害状況は、

農作物としては、ネギ・アスパラ・スナップエンドウ・とうもろこし・菜種・ぶどうで被害面積4・8ha、被害額がぶどう除きで約1,357千円、また農



大きな被害を受けた畑作物

業用施設ではパイプハウス3棟、約390㎡、被害額は約101千円と見込まれていますが、ぶどうの被害額については鹿角地域振興局農林部と調査中であります。

被害に遭われた生産者の皆

新規就農対策について町独自の考えは

町長 近隣市町村の状況を見ながら検討したい

様には、今年の経営計画において支障が生じ、大変苦慮されていると思われますが、来年につながるような必要な支援について、生産者や県と相談し、対策を早急に検討したいと考えております。

問 国の対策として、45歳以下の新規就農者に150万円を助成する制度を設けているが、町の活性化のため町独自で年齢制限の緩和や助成金の上積みなどの考えがないか。

答 ご存じのとおり、国・県の新規就農総合対策支援事業の制度を活用した新規就農対策を町でも実施していま

す。就農準備型として、県の農業経営者育成機関、先進農家、先進農業法人で研修を受ける場合、45歳未満で就農する者に対し、研修期間中について年間150万円を最長2年間給付する。また、経営開始型として、45歳未満の独立・自営就業者について年間150万円を最長5年間給付

する制度があります。この制度を活用して独立・自営就農した時に機械・施設等を導入する支援として、就農支援資金や経営体育成支援事業の活用により、購入資金の支援を受けることが出来ます。

町では持続可能な力強い農業を実現するには、青年の新規就農者や経営継承者を増やす必要があると考えており、このような制度を活用して、就農準備および自営就農されるようお願いしております。



意欲的な農業への取組み

特に、就農準備型による農業研修で、ノウハウを身につけていただきたいと考えており、国・県の補助制度の活用には、一定年齢までの支援であることにはご理解いただきたいと思います。

なお、質問のこれらの制度とは別に町独自の支援制度については、近隣の市町村の状況を確認し、農業後継者の育成策として、なにをどこまでできるか検討したいと考えております。

議 会 レ ポ ー ト

6月定例議会における各常任委員会の審議の状況を紹介します。なお、審議の結果はこの面の下端に掲載します。また、今年は時季外れの降ひょうにより、野菜や果樹に大きな被害が発生し、担当委員会では現地調査を行いました。33回目となる「アカシアまつり」は天候にも恵まれ、県内外から大勢の方々が「まつり」を楽しみました。

総務福祉常任委員会

6月定例議会で付託された案件は、陳情2件のみでした。その中の一つは、公職選挙法の改正により選挙権年齢が引き下げられたことに伴って、未来の有権者のために模擬投票所を設置してほしい。とのことでした。委員からは、趣旨は理解できるが実施するとすれば、投票票事務に二重の負担がかかることから、委員会では全会一致で、趣旨採択することに決定しました。

「趣旨採択」とは、願意は理解できるが、地方公共団体の事情等から当分の間は願意を実現することが不可能である場合等に便宜的に「趣旨には賛成である」という意味の議決です。

他町村議会では、行っているようですが、小坂町議会では今回初めて取り入れられた議決方法です。

もう一つは、子どもの医療費助成について国に意見書を提出してほしい。とするものであり、全会一致で採択。意見書を国に送りました。

産業教育常任委員会

当委員会に付託された案件は陳情1件であり、協議の結果、全会一致で採択。国に意見を送りました。

来る5月30日に七滝・上向地区で発生し、野菜や果樹に大きな被害をもたらした「降ひょう」被害について、6月7日に現地調査を行いました。収穫間近のスナップエンドウや花を咲かそうとした、ぶどう等に大きな被害をもた

らしました。特にぶどうの生食用は壊滅的であり、ほとんどが加工用に回さざるを得ないとのことであり、関係者の方々からは、何らかの対応を求められました。

行政視察で来町

去る6月29日、北海道滝川市議会の議員5名（会派みどり）が、行政視察に訪れました。議会からは成田副議長が鉱山事務所で、歓迎のあいさつを行いました。

滝川市も「日本で最も美しい村」連合に加盟したことにより、今回小坂町を訪問したとのことでした。



北海道滝川市議会 議員のみなさん

その他	専決処分の承認													条例改正	平成28年度補正予算	区分	審議された議案一覧（※議長は採決に加わりません。）					
類似町村の議会運営に関する事務の調査	類似町村の産業・観光振興に関する事務の調査について	類似町村の町民福祉に関する事務の調査について	人権擁護委員候補者の推薦について	字の区域の変更について	小坂町過疎地域自立促進計画の一部変更について	平成27年度下水道事業特別会計補正予算（第3号）の専決処分の承認を求めることについて	平成27年度中小企業従業員退職金等共済事業特別会計補正予算（第1号）の専決処分の承認を求めることについて	平成27年度介護保険特別会計補正予算（第6号）の専決処分の承認を求めることについて	平成27年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）の専決処分の承認を求めることについて	平成27年度国民健康保険特別会計補正予算（第5号）の専決処分の承認を求めることについて	平成27年度一般会計補正予算（第8号）の専決処分の承認を求めることについて	小坂町ふるさと定住促進に係る新築住宅の固定資産税減免条例の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めることについて	小坂町町税条例等の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めることについて	小坂町町営バス設置条例の一部を改正する条例制定	簡易水道事業特別会計への繰入れ	文化基金特別会計補正予算（第1号）		国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）	一般会計補正予算（第2号）	一般会計補正予算（第1号）	議案名
11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	10	11	11	11	賛成	採決結果
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	反対	
可決	可決	可決	推薦	可決	可決	承認	承認	承認	承認	承認	承認	承認	承認	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	結果	

大盛況だったアカシアまつり

6月11、12日に開催された「アカシアまつり」は、大勢の人で賑わいました。11日は開会式前に明治百年通りに設置された、モニユメントの除幕式が行われ、町議会議員も参加しました。

引き続き行われた開会式にも出席し、開花のピークは過ぎたもののほかに残る花の香りを満喫しました。

また、レールパークでは新たな試みとして、「寝台特急あけぼの」をレールパークから1号トンネルまでの区間を乗客を乗せて運行し、おおい

議員と語る会

質問 小坂の生徒が20パーセントしか進まなかった理由は、小坂高校に魅力が無かったからではないのかと思えてならない。地震だとか、大雨だとか、自然災害のことを考えた、新たな考えを持ってほしい。

答弁 この件は、議会としても勉強しながら対処していきたい。

質問 農業問題について、2年後の生産調整・減反政策廃止など、国は農家のことを考えているとは思えない。知事は米以外をつくって輸出をなささいといってるが、農家一人ひとり立ちゆかないと思う。農家と農協と行政、どのように取り組むべきか、明確にしたい。

答弁 農業政策は国の考え方ですんでいくが、国自体もハッキリしていない。個別保証を無くするということだが、それに変わったものを国は準備するとのこと、そういう表現がされている。

町としては、国の決定を受け、農家に対し助成・援助出来るのか、現時点で明確な話は出来ない状況にあり、2年後の平成30年段階でどう対応すべきか、それに向けて議論していきたい。

質問 介護・医療などの人材不足を補う施策として充実した奨学資金制度の確立を望む。

答弁 福祉法人や社協での介護職員の状況を見る限り、その辺は確保出来ていると感じているが、医療となれば問題はあると認識している。

県の医療に対する構想を見る限り、大館市・鹿角市、そして小坂診療所、これらの連携が必要であると認識している。町の診療所を町の力で大きくすると財政的に難しいことだと思う。

質問 議会と話ができることはありがたいことだが、肝心なことは役場職員がいないことが気に掛かる。課長を置いた「語る会」にするべきでは。

答弁 この件については、議会と町当局との協議をおこない結論を出したい。

に盛り上がりました。平成6年に小坂鉄道の旅客部門が廃止なつてから、22年ぶりに鉄道車両（ブルートレイン）が短い区間ではありますが、小坂の町を走りました。



明治百年通りを走るブルートレイン



今年も大勢の人で賑わった「アカシアまつり」

陳 情	報 告	決 定	其 他	区 分	議 案 名	
					賛 成	採 決
総務福祉常任委員会付託 未来の有権者のための、模擬投票所設置に関する陳情	議員派遣の件の報告について	平成27年度一般会計繰越明許費繰越計算書	議員派遣の件について	議案	議案	議案
産業教育常任委員会付託 教職員定数改善と義務教育費国庫負担割合2分の1復元をはか るための、2017年度政府予算に係る意見書採択の陳情	平成27年度下水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書	議案	子どもの医療費助成に係る国民健康保険の国庫負担減額調整措 置の廃止を国に求める意見書	議案	議案	議案
総務福祉常任委員会付託 子どもの医療費助成に係る国民健康保険の国庫負担減額調整措 置の廃止を国に求める意見書提出の陳情	議員派遣の件の報告について	議案	子どもの医療費助成に係る国民健康保険の国庫負担減額調整措 置の廃止を国に求める意見書	議案	議案	議案
11	11	11	11	賛成	採決	決 果
0	0	0	0	反対	採決	決 果
採択	採択	趣旨採択	報告	報告	報告	報告

議員と語る会

質問 給食の無料化・通学補助など、議会としてもっと強くアピールしていただきたい。

答弁 小坂町から通学している全ての高校生に対し通学支援をおこなう。さらに修学に関する教材等の支援も考えていかなければならない。

質問 第5次総合計画では観光に力点を置いているとの認識に感じる。本年度計画に上がっている同和所有の農場を駐車場にとのことであるが、もっと有効な使い方をしてほしい。

答弁 アカシア祭り等、イベント開催にあたり駐車場が不足するということから本年度の当初予算に計上された事案です。おっしゃるとおり駐車場の有効活用がされるよう議会としても議論していきたい。

質問 小坂高校は本年度の入学数43名、3分の2（47名以下）を切っていることから来年度も同じ状態になった場合、小坂高校の募集停止の可能性がある。これにより高校の閉鎖も考えられる。

また、小中高将来構想が頓挫したわけなので、そのことを確認した上で次のステージである高校の建設場所を決定すること。議員は危機感を持って対応してほしい。

議員と語る会に寄せられたご意見について

自治会・個人から提出された紙面によるご質問・ご意見について、議会として慎重に対応するべく、町当局との協議を予定しています。結果については紙面にてご返答致します。



真剣な議論がされた議員と語る会

答弁 この度の第二次素案はまことに残念ではありません。県教委が3つの高校を1つにすると表明した以上、小坂町の生徒たちにとって不利益にならないよう次のステップ（建設場所）に向かって関係する各機関と協議をおこなうこととなります。

質問 花輪地域の断層は危険な状況にあることを認識し対処いただきたい。小坂高校発展支援協議会の今後の対応はどのようにしていくのか明確にするべきではないか。今後の方針を町民に示してほしい。

答弁 現在、参議院議員選挙がおこなわれておりますが、発展支援協議会の事務局サイドでは、この選挙が終わってから発展支援協議会としての総括をおこない、町民皆さんに対し今後の方針を明確にしていかななくてはならないと思います。

今年には熊の出没が多くみられた、鹿角市では熊による被害者が出てしまい農作物や観光にも影響が出ることを心配しております。

さて、先日6月30日「議員と語る会」がこれまでの各連協単位から全町を対象として開催されましたが6月の繁忙期ということもあり、町民の参加人数が少なく、開催時期の検討も必要と思われました。

しかし、この度町民の皆様から出されたご意見は、今後の農業のあり方、とりわけ後継者問題・高校の存続問題・介護医療の問題が提示され、町民皆様からの町政に対する熱い思いを感じました。

これらの他にも皆様抱えているいろいろな問題があると存じますが、一緒に考え少しでも良い方向を導き出せるようにしたいと思います。

今後、ご要望があれば可能な限り、迅速に向向いて意見の交換をしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(宮)

編集後記